



千葉大学医学部同窓会報 第109号

題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るの は な 同窓会長)

編集発行者
千葉大学医学部
るの は な 同窓会報編集部
〒260 千葉市中央区玄鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るの は な 同窓会
電話 (043) 222-7171 内線5026



平成7年度るの は な 同窓会総会は、千葉県のるの は な 会の主催により、平成7年6月24日(土)午後3時より、千葉駅ビルのペリエホールにおいて開催された。総会の準備を担当した越川衛理事の司会で開会し、渡辺武副会長の挨拶の後、高橋英世医学部長より医学部の近況報告があった。次いで、木内政寛理事より平成6年度の会務報告が行われ、物故者への黙祷を捧げた。渡辺武副会長が議長となり、平成6年度決算報告、平成7年度予算案、るの は な 同窓会賞規定(案)などが承認され、次いで、第38回東日本医科学学生総合体育大会支援状況などの報告が

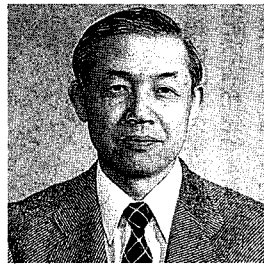
平成7年度 るの は な 同窓会総会 開催

平成7年度るの は な 同窓会総会は、千葉県のるの は な 会の主催により、平成7年6月24日(土)午後3時より、千葉駅ビルのペリエホールにおいて開催された。総会の準備を担当した越川衛理事の司会で開会し、渡辺武副会長の挨拶の後、高橋英世医学部長より医学部の近況報告があった。次いで、木内政寛理事より平成6年度の会務報告が行われ、物故者への黙祷を捧げた。渡辺武副会長が議長となり、平成6年度決算報告、平成7年度予算案、るの は な 同窓会賞規定(案)などが承認され、次いで、第38回東日本医科学学生総合体育大会支援状況などの報告が

教授就任の挨拶

内科学第一講座

税 所 宏 光 (昭40卒)



平成7年9月1日付で大藤正雄前教授の後任として医学部内科学第一講座を担当させていただくこととなりました。

第一内科は千葉医科大学となつて初代の竹村教授以後、石川、三輪、奥田、大藤の歴代教授それぞれが時代を受け継がれ、大学とともに歴史を刻んでまいった教室です。現在、教室の中心をなす消化器病学、中で

総会に引き続き国立民俗歴史博物館教授高橋敏先生の「文明開化の光と影」と題する有意義な講演が行われた。懇親会(写真)では同窓会の一層の発展を願つて乾杯し、各支部から参加された先生方の挨拶もあり、和やかに歓談の一時を過ごした。

と感しますが、この度、第一内科の運営をお引き受けいたしましたからには、ご期待に違わねよう働く覚悟を決めております。

私は昭和41年故三輪清三教授のもと第一内科に入局以降、消化器病学、特に、胆道・脾の臨床研究を専門として今日までまいりました。胆道・脾は位置的にも消化器病学の主体をなす肝臓と消化管の中間に存在し、幸いなことに両者に跨る医学的知識を学び、広い臨床経験をj得る機会に恵まれたと自負しております。

第一内科には、消化器部門のほか、血液部門、腎・免疫部門があります。教室員がそれぞれの専門分野で

神経内科学講座

服 部 孝 道 (昭42卒)



平成7年3月末に定年退官されました平山恵造教授の後任として、この度神経内科学講座を担当することになりました。私は当医学部を昭和42年

益々闊達に研究活動ができるよう関連病院を含めて教室の環境を整えるとともに、また、一致協力の要ある課題には教室の総力を結集できるよう関係者間、日常のコミュニケーション維持に十分な配慮をはかりたいと思います。

昨今の目覚ましい科学技術の進歩に広く目を配り、医学研究の面で教室の創造性を追求するとともに、臨床教室として、新しい知識と技術を医療に還元するアット(わざ)をもつ人材、即ち、優れた臨床医の育成に微力を尽したいと願っております。皆様の暖かいご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

服 部 孝 道 (昭42卒)

て、昭和53年に新設された本学の神経内科教室に参加し、これまで平山恵造教授を補佐してまいりました。神経内科学は脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病気を扱う学問で、高齢社会の進んでいる今日、脳血管障害、アルツハイマー病、変形性脊椎症など種々の神経疾患患者が増加しており、パーキンソン病、多発性硬化症、重症筋無力症、筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症など国の難病に指定されている神経疾患も多く、臨床部門としての重要性がますます増加しております。近年、画像診断学、電気生理学、分子生物学などの進歩は著しく、神経疾患の診断や治療において革命的ともいふべき変化がみられつつあります。

今後、研究心に富んだすぐれた臨床医を育成し、関連病院の拡充を続けるという従来の教室の方針を大切にすると共に、最先端の神経科学を積極的に取入れた研究を行い、時代の要請に答えられるよう教室の発展に努力したいと考えております。皆様からのご指導、ご鞭撻を心からお願いいたします。



教授就任の挨拶

東京女子医科大学附属第二病院小児科

浅井利夫(昭44卒)



この度、村田光範東京女子医科大学附属第二病院病院長(昭35)の推挙により、東京女子医科大学附属第二病院小児科教授に就任いたしました。卒業した昭和44年は、周知のように所謂「医学部紛争」の真つ最中でした。学友同志、教授会などとの討論の毎日でした。私自身は家庭の都合もあり昭和44年8月に、東京に帰り、東京女子医科大学附属第二病院小児科に入局しました。数年の研修後に開業するつもりでおりましたが、入局後に「川崎病」という小児の新しい熱性発疹性疾患にめぐり合いました。恩師の故草川三治教授が小児心臓病が専門であったこともあり、川崎病の冠状動脈瘤後遺症を冠状動脈造影検査で世界で初めて発見する

などの幸運に恵まれました。その後は、川崎病ばかりでなく、学校心臓検診の分野にも研究活動が広がって行きました。さらに、ロースアンゼルス小児病院循環器科への留学、金沢医科大学小児科にも勤務いたしました。金沢医科大学小児科在職中に「水泳中に心電図記録が出来る装置」の開発に成功し、スポーツ医学の分野にも研究活動を広げることが出来ました。最近、周知のような少産時代です。小児医療も厳しい現状にあります。東京女子医科大学附属第二病院小児科は東京都荒川区にあり、比較的子供が多く、恵まれた地域を背景とした病院ですが、少産時代の影響が感じられます。しかし、子供の病氣は精神的疾患、肥満など多種多様になってきております。さらに、子供が置かれている環境は決してよいものではありません。まだまだ小児科医の仕事は沢山あります。子供の数が減れば減るほど小児科医のニーズは高くなるはず

です。今後は、若い小児科医に「夢」を与え、日本の子供ばかりでなく、世界の子供達の為のことも考えながら、後進の指導に当たるつもりでおります。幸いに、東京女子医科大学にはるの

獨協医科大学第二麻酔科学講座

崎尾秀彰(昭44卒)



獨協医科大学は栃木県壬生町に昭和48年4月に開学され、大学病院は昭和49年7月に開院されました。この度、その第二麻酔科学講座の教授に平成7年4月1日付で就任しました。この数年間は多くの初代教授が定年退任される時期にあたり、2代目教授への移行期と言えます。臨床医学系でも2年間で12名の教授が退任されます。麻酔学には2講座ありますが、第二麻酔科学講座は主として麻酔学と集中治療医学に携わっています。千葉大卒業当時、非入局・自主カリキュラムを主張し、大学側との話し合いが

はな同窓会の会員の先生方も多く、いろいろとご協力いただいたいております。この場を借りて同窓の諸先生方にこれまで以上のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

昭和47年11月からは新設された千葉県がんセンターに7年間勤務し、昭和54年5月には私事により出身地である栃木県宇都宮に帰ることになり、縁あって、自宅から通勤可能な獨協医科大学に助教授として勤務することができました。以来16年が経過しましたが、多くの仕事が待ち受けていました。大学卒業時には臨床医に医学博士の称号は不要と、博士号に疑問を感じていましたが、大学院生の指導なども加わり、自分自身も留學時代の研究をまとめて学位を取得しました。教室員の確保も大きな問題です。幸い、25名前後に

健康政策局長就任挨拶

厚生省健康政策局長

谷修一(昭38卒)



まで増えました。栃木県には千葉大出身者が勤務している病院も多く、3つの関連病院に2、3名ずつ派遣しています。医師過剰時代が到来するため、学生の定員削減が検討されていますが、麻酔科医にはその心配は不要のようです。ほとんど経験のなかった学生教育にも力を注いでいます。膨大な医学知識をいかに効果的に講義してゆくかについて頭を悩ませています。医師国家試験の問題は、すべて目を通し、ヘナ

平成4年10月から健康政策局長としておりましたが、本年1月10日付で健康政策局長に就任致しました。本誌には平成5年9月「役所生活三十年」と題して執筆させていただき、その際私の経歴についても書

イターで学生に解説しているのが私立医科大学の現状です。卒後研修の義務化とブライマリーケア重視が叫ばれています。麻酔学や集中治療医学や救急医学は、この時流に合った部門と言えましょう。より良き臨床医を育てるべく、微力ではありますが、努力する所存でありますので、皆様のご指導、ご支援を切にお願い申し上げます。教授就任の挨拶とさせていただきます。

きました。昭和39年千葉県市原保健所を振り出しに、44年に厚生省に移り今日に至っております。就任後すぐに阪神大震災がおこり、2ヶ月程その対応に追われました。私の担当であります救急医療を初めとする医療の確保については、救護センターの設置、救護所への巡回診療などに對し、全国の医療機関、医師会、大学病院、保健所などから延べ数万人を越える医療関係者の応援をいただきました。高齢者などの福祉対策は

もとより、仮設住宅の建設、水道の復旧、廃棄物の処理、遺体の火葬場の確保など今回の大地震の対策を通じて、改めて厚生行政の幅の広さを感じさせられました。現在厚生省で省を挙げて取り組んでいる課題は、公的介護システムの制度化です。7月末の老人保健福祉審議会の中間報告では社会保険方式による介護保険制度の検討が提言され、これを受けて年末をめどに具体的な制度の検討が行われております。介護保険の問題は医療供給体制の在り方とも無縁ではありません。このため、現在医療審議会において、医療施設機能の体系化、地域医療計画、医療法人制度の見直しなどについての議論を行っております。

また、医師の卒後臨床研修については、昨年以来、これを必修化するかどうかについての議論が行われていますが、医療全体に与える影響も大きい問題であり、広く関係者の意見を聞いて対応していかねばならないと考えております。これらの検討にあたって、本学関係者では医療審議会に藤森千葉市医師会長、臨床研修の問題は行天

横川宗雄先生を偲んで

小島 莊 明 (昭40卒)



千葉大学名誉教授横川宗雄先生には、去る5月3日午前4時58分、蜘蛛膜下出血のため逝去された。享年77歳であられた。

実は、昨年9月、イブミール(トルコ)での国際寄生虫学会において、1998年の同学会開催国は日本と決定し、それを受けて、本年4月5日、日本寄生虫学会において、先生に国際学会長を引き受けいただくことが決定した矢先の突然のご逝去に、関係者一同茫然自失の状態になっているというのが正直なところである。

筆者にとっては、学生時代からご指導をいただき、時には父の如くお慕いし、あるいは時には若気のいたりでひそかに反発もし、そして乗り越えるべき目標と

もしてきた先生であるだけに、先生を失ったいま、心は空虚であるといか言いがたい思いがする。

先生は、昭和31年5月、新設された医動物学講座(昭和35年、寄生虫学講座に改称)に教授として国立公衆衛生院より赴任された。当時、病理学の教授であられた滝沢延次郎先生の懇望によるものであったと、先生ご自身から伺ったことがある。以来、昭和59年、定年でご退官になられるまで寄生虫学の教育と研究に従事されたとともに、昭和48年4月から50年3月まで、51年8月から53年7月までの二期計四年間にわたって医学部長をつとめられた。先生のご研究は多方面にわたっているの、その業績の全貌を述べ尽くすことは至難の業であるが、なんといたってその中心は、お父上の横川定先生の影響ではじめられた肺吸虫症の診断と治療に関するものであろう。ウェステルマン肺吸虫症の場合、一回の虫卵検査によって診断できるの

は70%程度であるといわれ、またこの方法では集団検査としては時間と労力の点で不都合である。そこで、先生は、全国規模での集団検査にも応用できるようにスクリーニング法として即時型皮内反応を開発された。そして、陽性者を対象として補体結合反応と虫卵検査により確定診断を行う方法を確立され、また補体結合反応が治療判定にも有用であることを明らかにされた。これらの免疫診断法の確立が、後に宮崎肺吸虫症の発見の基礎ともなったのである。

また治療に関しては、試験管内でのスクリーニング法によってピチオノールが肺吸虫に対し殺虫効果のあることを見出し、動物実験、臨床試験を重ねて集団治療をも可能とする投与方法を確立された。ピチオノールは、最近まで肺吸虫症の特効薬としてわが国のみならず諸外国でも使われたほか、今日でも肝蛭症や条虫症の治療に用いられている。

このようなご研究によって、それまで結核と間違えられて長い療養生活を余儀なくされた人々に福音をもたらされたのである。先生は、その一連のご研究の成果を、二度にわたって雑誌

Advances in Parasitologyに総説として発表された。このことは、いかに先生のご研究が国際的にも評価されているかを示すものである。

先生は、寄生虫学会幹事はもちろんのこと、日米医学協力研究会寄生虫疾患部会長、WHO専門委員などをつとめられた。また、文部省科学研究費によって中南米における肺吸虫症の研究調査を続けてこられた。ご退官後は、日本寄生虫予防会理事長として、途上国に拡がりつつある寄生虫予防とプライマリーヘルスケアのインテグレーションプロジェクト推進のため、アジア諸国はもとより遠くアフリカにもお出かけになられた。寄生虫学教室に連なる者はみな、先生についてこれらの研究の旅に出かけ、じかに先生のご指導をいただく幸運に恵まれたのである。一日の仕事を終えると、先生は一同を誘って囲碁や麻雀にうちこまれるのが常であった。

しかし、いまやこのような幸運に恵まれる日々は二度と戻って来ないことになってしまった。この春の学会の折り、喜寿のお祝いを盛大にしましょうと、先生と日取りまで決めたお約束

も果たせないことになってしまった。先生のご訃報に添えて、「学問上最も貴重なものをつたうようにさえ思われる」と、先生と親しかった海外の先生方に書き送ったところ、懇ろな慰めのお手紙を筆者にまでいただいた。それらを奥様に届けて、先生の墓前に供えて戴きたいと願っている。

おくやみ

- 高橋 等(大8)
- 鬼沢 仁衛(大12)
- 村上 正一(昭2)
- 田辺 治雄(昭9)
- 竹居 光典(昭15)
- 小畔養之助(昭16)
- 佐藤 進(昭17)
- 洪川 陸雄(昭17)
- 片桐 純也(昭18)
- 内山 重雄(昭23)
- 菊山 淳(昭23)
- 高木 達(昭25)
- 鈴木 玄彊(昭26)
- 山口 崇夫(昭27)
- 室伏 岳郎(昭27)
- 山崎 紘之(昭45)
- 加藤 敬(昭62)

人事異動

千葉大学
教授昇任
税所宏光(昭40)内科学第一
(同助教授より)
服部孝道(昭42)神経内科学

(同助教授より)
講師昇任
稲垣暢也(京大59)発達生理
分野(同助手より)
小野純一(昭51)
脳神経外科(同助手より)

他大学
浅井利夫(昭44)
東京女医大第二病院小児
科教授(同助教授より)
崎尾秀彰(昭44)
獨協医大第二麻酔学教授
(同助教授より)

平山恵造(東大昭29)
東京慈恵医大客員教授
尾形 均(昭58)
帝京大市原病院放射線科
助教授(癌放射線治療
医員より)

土屋幸浩(昭40)
国保山武郡南病院院長
(第一内科講師より)
神津照雄(昭44)
組合立国保成東病院院長
(第二外科講師より)

千葉県医師会
退任(3月31日付)
副会長 大藤正雄(昭29)
新任(4月1日付)
副会長 山口 豊(昭31)

千葉県精神保健センター
昇任(4月1日付)
センター長 矢野 徹(昭40)
(同次長より)
転入(5月1日付)
センター次長 柳橋雅彦(昭46)
(千葉大精神科講師より)

(2面より続く)
NHK元解説委員、磯野第二外科教授のご参加をいただいております。

医療の問題は、更に進む人口の高齢化、増え続ける医療費、そして日進月歩の医療技術の中で、医療の質を保ちつつ、いかに制度を効率的なものとするかが今後の課題であり、介護保険の制度化も含めて幾つ目かの、それも大きな曲がり角に近づいていると思います。

るのはな同窓会の皆様への折りに触れてのご指導をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

――。――。――

- 千葉県がんセンター異動
転出(3月31日付)
主任医長 石田 逸郎(昭41)呼吸器
医 長 岩立 康男(昭58)脳外科
" 小松 伸介(昭60)臨病理
" 須藤 知子(昭61)手術部
" 熊谷 匡也(昭62)化学療
医 師 中世古知昭(昭63)化学療
" 鈴木 実(平1)呼吸器
" 阿部 功(平2)整形外
転入(4月1日付)
主任医長 大里 克信(昭46)脳外科
医 長 重原 岳雄(昭58)頭頸科
" 米本 司(昭62)整形外
医 師 竹下 明宏(昭63)化学療
" 五月女 隆(平2)化学療
" 阿部伊知郎(平2)手術部
" 鈴木 洋人(平2)手術部
" 安福 和弘(平4)呼吸器

「るのほな随想」

吉田 亮(昭和23卒)

最初に、まったく個人的な思い出を二つ紹介させていただきます。

現在の医学部本館が、東洋一の新病院として誕生し、各科の移転が終了したのは、昭和12年8月である。建築のための地鎮祭を行ったのが、昭和6年7月であるから、6年の歳月を要したことになる。

東京府立第三中学校(現在の両国高校)の同級生であった山口功君の父上が、大林組の責任者として千葉市に居をかまえ、病院建設の指導をとっておられたことを、後日知ったが、山口功君は千葉師範付属小学校に入学、6年を経て卒業した後も、しばらくは、千葉から錦糸町の府立第三中学校に通っておられたということである。

山口功君は、東大工学部を卒業後、大林組に入り、父君の後を継いだが、子会社の社長を最後に、先年引退された。絵画をよくし、酒を愛し、友と親しむ好漢である。

ところで、この新病院を、遠くからではあるが、私自身はじめて見たのは、今

吉田 亮(昭和23卒)

考えると、新築まもない昭和12年8月であったようである。私の子供の頃は、毎年夏休みになると、何処か海岸の一軒家を借りて、従兄弟たちも加えて、一夏を過ごすのが習慣であった。多分、4人の男兄弟のうち2人を結核で亡くした伯父と父が、子供たちを健康に育て、結核にうち勝つ体力をつけさせたいという希望をもっていったためであったようである。

片瀬を除くと、稲毛、興津、館山と県内が多く特に、中学一年の時に過ごした九十九里の南白里村での一夏が印象に強い。最年長の従兄に召集令状が届くなど、長い戦いの日々に入する年であった。有料の旭橋、南白亀川でのボート遊び、長い砂浜と松林など思い出されてくる。

ある朝、市川の病院に帰る伯父の自動車に、私も同乗させてもらい帰るといふことになった。今考えると、東金街道の旧道を走っていたのであろうか、伯父が微睡んでいた私に向かって、「亮、あれが千葉医大の新病院だ」と声をかけた。

朝日に燦然と輝き、岡の上に聳えた新病院は、まさに目をみはらせるものがあった。中学一年の当時から、後年この大学でお世話になるうとは思ってはいなかったし、伯父にしても、次男の尚さんが、東大・自治医大を経て、この第二内科の教授として赴任してこようとは、想像もしていなかったであろうが、何故か、この日の朝の印象が強く残っている。

次に、この病院を訪れたのは、昭和17年の夏の日である。旧制静岡高等学校に入っている夏休みで市川に帰省していたが、市川小学校、東京府立第三中学校の同級生であり、当時、横浜高等工業に入学していた川野太郎君が、結核にたおれ、千葉医大の病院に入院していたのを見舞うためである。川野太郎君とは家も近く、よくお互いの家を往來し、遊びあった仲の良い友人であった。丸々と太った童顔の明るい少年であった。

病院坂の花屋に、鉢植えの蘭を買い(お見舞に、鉢植の花はよくないということは知らなかった)、川野太郎君の病室を訪れた。当時の結核病棟は、現在の看護学部のある場所にあった

木造の病室の一角であった。二人とも言葉少ない、妙にぎこちない面会であったが、「頑張れよ」という私の別れの挨拶をきいていた川野太郎君の両眼に、みるまに涙があふれ出た。数ヶ月後、静岡で川野太郎君の死を知った。この木造の病室は、昭和20年の6月と7月の2回にわたる千葉市の空襲で焼き尽きた。

私はその後、千葉医大に入学し、昭和23年9月に卒業、一年間のインターンを経て、大学病院で過ごしたが、半年後に次の学年が卒業し、インターンに入った。病院では私たちにもうこなくてよいという次第で、10人程の学友たちと連日、勉強会をはじめた。丁度、衛生学教室の谷川教授が社会医学研究会の部屋として特別に借して下さった、木造の衛生学教室別室の一隅を利用した。この半年間は、実によく勉強した。ノートにして20冊位の成果を得、おかげ様で我々の級の国家試験合格率は、前の学年をはるかに超える高率であった。

この衛生学教室別室はとりこわされ、現在は病院の連絡道路の右側の広い駐車場となっている。

昭和24年10月からほぼ19年間は小児科教室で過ご

し、昭和43年1月からは公衆衛生学教室で約20年間お世話になった。大学紛争の結果現在も続けられている委員会制度が始まったが、私は主として、環境保全委員会に属し、玄鼻台の環境整備・美化に努力した。

園芸学部の先生方が学生を引率して来られ、玄鼻キヤンパスの植生調査を実に詳細にして下さった。また、村山智教授が中心になって、別に予算がくる見込みがあるわけでもなかったのに、キヤンパスの整備計画を作成したり、「風の道」とか、凡秋谷をめぐる患者さんのプロムナードを築きそうに図面に書き入れていたことが、つい先日のことのように思い出される。

それでも、ある年の12月も押し迫った頃、大学本部から少し予算があるので、何か良い環境整備のプランがあるかという話しがとびこんできた。その結果が、現在の医学部正門前の植え込みである。当時は、ヒマラヤ杉が何本か雑然と立っており、その間に自動車を突っこんで駐車しておくといった状態で、とても正門前の風景ではなかったのである。しかし、勝手にヒマラヤ杉を数本切り倒したことで、当時の衛生学の石川

清文教授にひどく怒られた。石川教授は旧制松本高等学校の出身である。先日、松本高等学校敷地に古い校舎の一部を利用してつくられた旧制高等学校記念館を訪ねたが、うっそうたるヒマラヤ杉の森をみて、石川

教授が怒られた理由がよく分かった。同級生として、お互いに良き友人であった石川清文教授のご冥福を改めてお祈りする次第である。

ところで、国立大学の財政は、昭和39年度に成立した国立学校特別会計制度によつて運用されている。これは一般会計からの繰入金と、付属病院収入・授業料・学校財産処分収入等の自己収入から構成されているが、昭和49年度を境に、一般会計からの繰入金の比率が低下し、自己収入の比率が上り、平成2年度には、全歳入予算の4割を占めるまでに至った。この原因は、基本的には国家財政の悪化にあるが、特に昭和53年以降は、ゼロ・シーリングあるいはマイナス・シーリングの枠が設定され、一般会計からの繰入れ金の伸び率は、その枠内に抑制されることとなった。一方、歳出を考えると、人件費そのものは増加傾向にあり、教育・研究経費をある程度のレ

ベルで維持しようとする、結果として施設整備費が最大の削減の対象となる。私が学長に就任した昭和63年度は、前年度・前前年度とともに施設整備費が最低に落ち込んだ年であった。しかし、幸いにして、平成4年度から、国立大学の教育研究環境を緊急に改善することを目的とした「特別施設整備事業」が発正予算により状況がやや改善してきた。因みに本学における昭和63年度の施設整備費を1とすると、平成4年度13.5、5年度21.6と急激に増加した。玄鼻キヤンパスもその恩恵を受けたし、長年の願望であった、玄鼻分館の建設も間近い。

ただ、こういった補正予算は急に決まることが多い。平素から玄鼻キヤンパスの中長期計画を確立しておくことが大切である。関係者の一層の奮起を期待したい。(前 千葉大学長)

祝 叙 勲

勲三等旭日中綬章

高谷 治(二内、東大23)

勲四等瑞宝章

佐藤 巖(昭24)

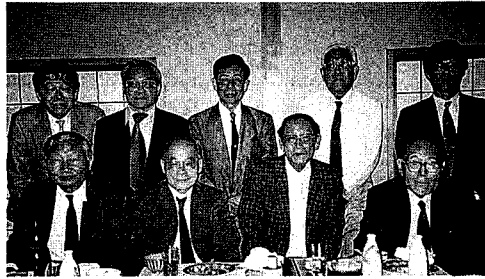
勲五等双光旭日章

坂本美樹(耳鼻、弘大28)

るの は な 会

たより

板橋るの は な 会



平成7年6月19日、板橋るの は な 会を池袋「吉野」で開きました。本家るの は な 同窓会から貫洞先生をお迎えして「るの は な 同窓会」の現状と将来展望などをお話いただきました。

工藤博爾先生(昭16)の発声で乾杯のあと、「吉野」のおいしい料理に舌鼓をうちながら、なつかしい話に花を咲かせました。

板橋るの は な 会は、板橋区の在住者だけでなく区内の関連病院に勤務されている先生方にも参加していただいています。出席するとまた一つ新しい世界のひろ

がる楽しい会です。

(服部芳夫・昭40・記)

クラス会

昭八会

(昭12卒)

私どものクラス「昭八会」(昭和8年入学、昭和12年卒業)の第29回クラス会は、平成7年5月14日(日)午後1時から、東京銀座三笠会館本店三階和食「吉野」に於いて開催した。

会場は地下鉄銀座駅から徒歩二分と云う交通の便の良い所を選んだのでしたが、3月20日の地下鉄サリ

ン事件以来、社会不安は高まる一方で、出席の返事を下さった会員で急遽欠席に変更と云う方もあって、とんだとばかりを蒙り、結局出席者は僅かに8名(会員5名、夫人3名)で、い

ささか淋しい会でした。

本年度幹事、菅井規矩雄兄の開会の挨拶、物故会員に対して黙祷のあと、名古屋からお元気に出席された林武夫兄の乾杯の音頭によつて開宴、各自が思い出話や近況などを語り合っ

武夫、岡村正明、久富良次(後列左から)植竹謙、菅井規矩雄、菅井晴子、久富翠(幹事・久富良次 記)



八千会

(昭26医専卒)

平成7年5月20日、豊橋市の「ホリデザイン・クラウンプラザ豊橋」で八千会が開催された。遠くは九州佐世保、広島県呉から、そして四国は新居浜から、その他大阪、東京、千葉から集うもの15人。古希を迎え、あるいは古希を迎えようとするもの達を見ると、皆年齢より若く元気であった。

今年は幸せなことに誰も欠けることなく、ホテル内「楓の間」で総会が開かれた。まず物故会員の黙祷に始まり、森会長の挨拶、大田幹事の総務・会計報告、

議事(来年度卒業45周年の記念事業、開催地、規約の改定など)がなされ、引き続き懇親会にはいる。中華料理に舌鼓を打ちながら、各人最近の消息を語り合う。酒が入って酔いがまわるうちに話はずみ、学生時代の昔話に花が咲く。我々の学年は、敗戦直後の混乱の中で、外地から学業半ばで引き揚げた者、戦後廃校になって放り出された不運な人たち、軍隊からの復員者、或いは病気休学で遅れて復学した人たちなどの寄り合い世帯で重荷を負った者ばかりであり、クラス



の人数も少なく、それだからこそクラス全員仲が良く、絆は強く、毎年クラス会は盛大に開かれている。旧交を温めた一次会の後は、ホテル最上階の夜景の美しいスカイラウンジに席を移して二次会が持たれ、来年度の卒業45周年の節目の千葉での開催までお互いの健康を祈念し、和気藹々のうちに会を終えた。

(幹事・佐々木三雄 記)

55会

(昭30卒)

卒後40年、節目のクラス会は1995年5月20日晴天にめぐまれ、幕張メッセの幕張プリンスホテル46階の京葉地区を一望できる部屋に43名が南は琉球、熊本から北は山形から集まった。白髪の方、髪薄い方も多くなったが、皆次第に昔の雰囲気となり、さまざま話題に花が咲いた。20年前は、各職場でいかに働いたら発展するか、その情報交換が主な話題であったが、卒後40年になると現役の方もあれば、一方名誉教授や嘱託となった方や、診療所を第2世代に譲った方もおられる。おのずから話題は老後のことに及び、老化との戦い、人生の秋をいかに暮らすか考えた。

我々のクラスは戦後の食



料難のときに育ったせい、既に17名が他界された。この一年間に2名が鬼籍にはいられた。ご冥福を祈って止まない。

二次会も同じホテルのバーで話が弾み、夜が更けるのも忘れた。翌日は予報に反して天候に恵まれ房総の春盛りの中、数グループが元気にゴルフに興じた。

次のクラス会は静岡県在住の方々のお世話で、来春伊豆修善寺温泉で再会することを決めて解散した。多数の再会を祈りつつ。

(永野俊雄 記)

会費納入についてお願い
：本年度会費未納の方に振込用紙を同封しましたので、三千元を納入して下さい。なお行きちがい振込まれた方、または会費免除の方(卒後50年経過の会員および名誉会員)銀行振込の方に届いた場合は、ご容赦下さい。

四金会開催のお知らせ
日時 平成7年11月22日(水)
平成8年2月28日(水)
いずれも午後5時30分より
場所 千葉大医学部同窓会館

会 計 報 告

(自平成 6 年 4 月 1 日～至平成 7 年 3 月 31 日)

平成 6 年度決算報告

収入の部

単位 円

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
会 費 等	9,000,000	9,404,500	404,500
他会計より受入	1,300,000	1,056,606	△ 243,394
寄 付 金	1,100,000	1,524,882	424,882
雑 収 入	200,000	629,630	429,630
(当期収入計)	11,600,000	12,615,618	1,015,618
前年度繰越資金受入	5,757,065	5,757,065	0
収 入 合 計	17,357,065	18,372,683	1,015,618

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	対予算増減額
総 務 費	7,300,000	3,495,780	△3,804,220
1. 会 議 費	1,000,000	472,698	△ 527,302
2. 一般管理費	6,100,000	2,933,082	△3,166,918
3. 支部渉外費	200,000	90,000	△ 110,000
事 業 費	6,300,000	5,012,900	△1,287,100
1. 会 員 報	2,800,000	1,918,365	△ 881,635
2. 会 員 名 簿	800,000	394,535	△ 405,465
3. 学 事 奨 励	2,700,000	2,700,000	0
積 立 金	3,105,000	3,105,000	0
同窓会基金等	3,000,000	3,000,000	0
退職手当引当	105,000	105,000	0
予 備 費	652,065	0	652,065
支 出 合 計	17,357,065	11,613,630	△5,743,435

平成 7 年度予算

単位 円

科 目	平成 7 年度	平成 6 年度	差引増減額
会 費 等	9,500,000	9,404,500	95,500
他会計より受入	1,000,000	1,056,606	△ 56,606
寄 付 金	2,400,000	1,524,882	875,118
雑 収 入	200,000	629,630	429,630
(当期収入計)	13,100,000	12,615,618	484,384
前年度繰越資金受入	6,759,003	5,757,065	1,001,938
収 入 合 計	19,859,003	18,372,683	1,486,320

支出の部

科 目	平成 7 年度	平成 6 年度	差引増減額
総 務 費	4,550,000	3,495,780	1,054,220
1. 会 議 費	1,350,000	472,698	877,302
2. 一般管理費	3,100,000	2,933,082	166,918
3. 支部渉外費	100,000	90,000	10,000
事 業 費	7,230,000	5,012,900	2,217,100
1. 会 員 報	2,330,000	1,918,365	411,635
2. 会 員 名 簿	200,000	394,535	△ 194,535
3. 学 事 奨 励	4,700,000	2,700,000	2,000,000
積 立 金	6,450,000	3,105,000	3,345,000
同窓会基金等	6,300,000	3,000,000	3,300,000
退職手当引当	150,000	105,000	45,000
予 備 費	1,629,003	0	1,629,003
支 出 合 計	19,859,003	11,613,680	8,245,323

平成 7 年度 るのほな同窓会総会議事録

議題

1. 平成 6 年度決算報告および監査報告 佐藤(甫)理事より平成 6 年度決算報告の記載様式および決算内容について説明があった。次いで新藤会計監事より平成 6 年度決算が適正に行われたとの監査報告があり、審議の結果、平成 6 年度決算報告を承認した。

2. 平成 7 年度予算案について 佐藤(甫)理事より平成 7 年度予算案について記載様式をより一般的な款項目立てに改善した上で予算を計上した旨説明があり、審議の結果平成 7 年度予算案を承認した。

3. 名譽会員の推薦について 近藤副会長より、これまでの功績を讃え吉田 亮 大藤正雄、平山恵造の三先生を名譽会員に推薦したい旨提案があり、審議の結果三先生をのほな同窓会名譽会員とすることに決定した。

4. 参事の委嘱について 近藤副会長より、大藤正雄先生を参事に推薦したい旨提案があり、審議の結果承認された。

5. 常任理事の交替について 福田理事より、大藤先生の参事就任に伴い後任理事に増田善昭教授(昭 35)を理事、事業担当に推薦、退任を希望された小野清四郎会計監事の後任に笹川猛先生(昭 22)を推薦、また、佐藤(甫)事業担当理事を庶務担当理事に配置替えしたい旨提案があり、審議の結果これを承認した。

6. るのほな同窓会賞規定(案)について 嶋田理事より、同窓会賞規定案について説明があり、質疑応答が行われた。同窓会賞の設置は同窓会の活性化に役立つと考えられるので積極的に推進すべきであるが、同窓会賞選考委員の選出等に当たっては広く同窓会各支部の意見が公平に反映される必要があるとの意見が出された。審議の結果、常任理事会で選考委員会の細目等について慎重に検討することとした。

報告事項

1. 第 38 回東日本医科学学生総合体育大会支援について 中島祥夫大会顧問より同大会への同窓会による支援の経過報告と会員の援助協力に対する謝辞が述べられた。

2. 同窓会報の発行状況について 嶋田理事より前年度の発行(106・107・108 号)および今後の発行予定について報告があった。また、医学部本館建物の建造物についての興味ある調査報告が千葉医学雑誌に掲載されたとの報告があった。

3. その他 木内理事より、千葉大学図書館分館新館に伴う教育用視聴覚器材の充実を目指して、橋玄鼻分館長より同窓会に資金援助を願いたいとの申し出があった旨報告された。

東医体冬季大会 拠金状況

拠金状況

第 38 回東日本医科学学生総合体育大会冬季大会主管にあたり、同窓の諸先生方に資金援助をお願いをいたしておりましたが、お陰様で 7 月 17 日現在四七一名の先生方のご賛同により、四、〇九二、四五〇円の拠金を頂いております。これで本大会を成功裡に運営できると確信しております。節約すべきところは節約し、三年後の東医体グループ主管(北里大、東海大、千葉大、東大)の一員としての活動に余力を残しておきたいと思っております。なお、会計報告等は来年の総会にてご報告いたします。紙面を借り厚く御礼申し上げます。(生理学第一 中島祥夫)

千葉大学医学部 八十五年史

千葉大学医学部 百周年記念誌

右の記念誌に残部がありますので、希望者には進呈いたします。詳しくは事務局(内線五〇二六)にお問い合わせて下さい。

千葉大学医学部 同窓会名簿

同窓会名簿

名簿(定価は送料込みで三千円)購入ご希望の方は、同窓会事務局(内線五〇二六)にお申し込み下さい。

編集後記

本号より紙面を A4 版に拡大し、活字を大きくしました(一行 12 字)。また会報保存用の新ファイルをお届けします。

長年待望されていた図書館玄鼻分館の新館が決まりました。地上三階・地下一階、建築延面積約三六三〇㎡で、本館(旧病院)北側に本館の風格にマッチするように建築されます。ヘルスサイエンス情報図書館として、21 世紀の時代の要望に答えられるような十分な配慮がなされるはずで、石の机と椅子(写真)四組が昨年度退官された大藤、平山両先生より寄贈され、本館前芝生の木陰に設置されました。学生や教職員の憩いと交流の場となることが期待されます。(嶋田 裕)

